

大気汚染防止

設備やエネルギーの転換を通じて、SOx、NOx、ばいじんの排出量削減を推進します。

SOx、NOx、ばいじんの排出量削減

2004年度のSOx、NOx、ばいじんの排出については、下記のグラフの通りとなっています

エレクトロニクス機器事業では、2003年度以降、SOx、NOxの排出量が大きく増加していますが、これは山形カシオにおいて、生産増大にともなう電力増の必要から、重油を燃料とするコージェネレーションがフル稼働となったためです。なお、山形カシオにおける排出測定値は、条例基準を満たしております。

コージェネレーションの導入は、生産高原単位におけるCO₂削減を目的としており、導入前の2001年度の生産高原単位と比較して、2004年度は0.038トン-CO₂/百万円削減されています。

■ 排出量削減に向けた取り組み

SOx、NOx、ばいじんの排出量については、全社的な方針として、今後、環境に最もやさしいターボ冷凍機の採用を推進するとともに、重油から灯油・都市ガスなどへの燃料の転換を推進することで、削減を図ります。

2004年度は、吸収式冷凍機の燃料

を重油から灯油に変更し、SOx、NOx、ばいじんの削減を図りました。

また、カシオ日立モバイルコミュニケーションズ、八王子技術センターでは、改築、新築された建物において、旧式のボイラーをSOx、NOx、ばいじん排出の少ない新型に切り替えたことで、大きく削減することができました。

■ 海外におけるSOx、NOx、ばいじんの排出量

2004年度は、韓国カシオ、カシオ電子(中山)では設備変更によりNOx、ばいじんの排出量を減少できました。しかし、カシオ電子(珠海)のSOxにおいて是对応が十分でなく、排出量が増加となりましたので、今後、削減に向けた対応策を講じていきます。

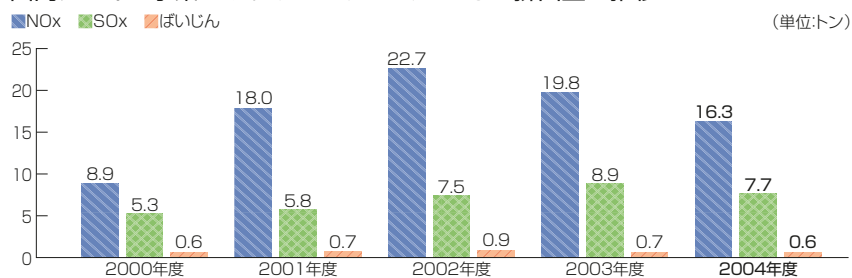
なお、2004年度現在、韓国カシオ、香港カシオ 番禺工場、カシオ電子(珠海)、カシオ電子(中山)以外の海外事業所においては、NOx、SOx、ばいじんの排出設備はありません。

冷凍機の環境排出負荷比較表 (社内での稼働条件より算出)

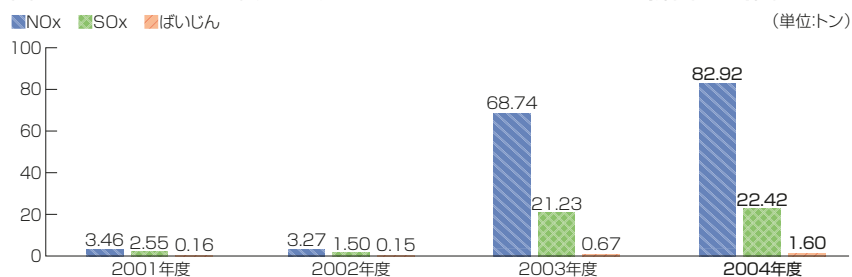
計算機器 機器名称	容量 (RT)	主エネルギー源			1時間運転した場合の C排出量	
		エネルギー源		補助電源	(KgC)	比率
ターボ冷凍機	500	電気	315Kw	2.75Kw	133.5	100%
冷温水器(標準)	500	都市ガス	136Nm ³ /h	9.95Kw	295.6	221%
冷温水器(省エネ)	500	都市ガス	129Nm ³ /h	11.75Kw	281.4	211%
冷温水器(標準)	500	灯油	162l/h	11.75Kw	415.0	311%
冷温水器(標準)	500	A重油	152.5l/h	15.75Kw	415.9	312%

※ターボ冷凍機が最も環境負荷が少なく電気稼働のため、自社内のNOx、SOx、ばいじんの排出はない

国内デバイス事業におけるNOx、SOx、ばいじん排出量の推移



国内エレクトロニクス機器事業におけるNOx、SOx、ばいじん排出量の推移



海外拠点におけるNOx、SOx、ばいじん排出量の推移

